

Vivienne's diary : 2014 年 4 月

4/1 (火) : 3月に2つのコレクションを全て終えた後、休めるかもしれないと思いましたが、いいえ。終わってすぐにレッド・レーベルに必要な最後のプリントに取りかかり、あれもこれもと遅れを取り戻していました。イアンが書く私の伝記の下書きを読んで、メモを取らなければなりません。私が正確に伝えたいと思っている事の一つは、私のモチベーション、そして私を動かすものについてです。

本の半分程を読みましたが、よく書けていると思います。中には、私のことを愛してくれている人たちからのサプライズもいくつかありました。私が知りも、または気付きもしないことでした。

4/8 (火) : 私の誕生日でした。普段、私は誕生日を祝ったりしません。こういう空騒ぎが好きではないからです。家で過ごしていました。きれいなお花が届き、その日の終わり頃にはかなりの数になっていました。ありがとう。1時にイアンが自宅に来て、私の伝記本についての仕事をします。彼は木曜日にもまたやって来ます。午前10時から夕方の6時半まで一緒に仕事をします。スペシャルイベントの間に、この4月は、レッド・レーベルの仕事に取りかかるようになっていきます。主に訂正して、イタリアから届いたニットウェアのサンプルを終わらせることです。それからフィッティングをして、レッド・カーペット用の生地を選びます。ゴールド・レーベルの仕事はありません。ゴールド・レーベルは、一番大事なコレクションなのですが、いつもギリギリまで残されてしまいます。シンシアはClimate Revolutionの仕事をシンディとしていますが、やる事が山積みのような感じです。私もいくつかの話し合いに参加しようと努めています。特に「We Need to Talk about Fracking.(フラッキングについては話し合わなければならない。)」です。



私は毎週開催される、QvQのミーティングだけには参加しようと努めていました。このミーティングは、私たちの会社と商品に専念し、それを縮小す

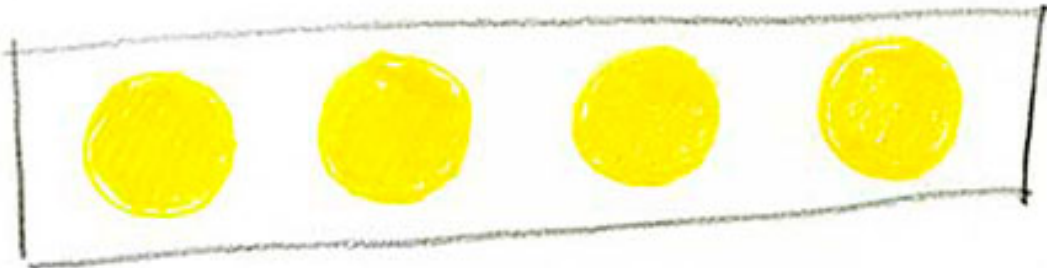
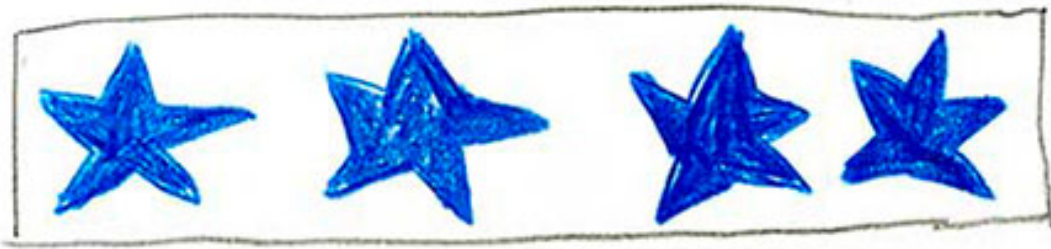
ることが目的です。時間が少しでも空こうものなら、私の伝記の下書きをイアンとチェックするのに時間を取られています。

4/9 (水) : 次のキャンペーンのアイデアを話し合うためにユルゲンの家に。宣伝広告、誰をモデルとして採用するのが最も重要になります。

夜 : 友人のローレンスと食事に。ローレンスはジョンを連れてきました。二人とも同じ会社で働いており、その会社はサイバージャイアンツと繋がっています。以前ローレンスに、彼がしていること、そしてなぜそれをするのかについて聞いたことがあったので、彼はとても個人的な彼の履歴書を私にくれました。第三者に向けて書かれたその履歴書を、[私はClimate Revolutionのウェブサイトに掲載しました。](#) 私がその履歴書を理解する限りでは、ローレンスとジョンは、携帯電話を所持することによって産まれる利益について考える、社会集団を見つけました。ローレンスの主な狙いは、女性に公的な権限を与えることです。そして携帯電話は、女性が自分達の人生をコントロールし、計画するためのツールとなります。例えばバンキングやマイクロファイナンスです。

夫の電話を使う事を通して、書く事を独学で覚えた一人の女性について彼は教えてくれました。その女性はそれから自分の村に住む女性達にも文字を教え、今やコミュニケーション関係の大企業のトップだそうです。

必然的に、会話はインターネットがもたらす悪の方へと変わっていきました。私は母親の横に座っているリラという 5 歳の子のことを思い出しました。(その母親はこの子を私たちの会社に連れて来なければなりませんでした。) リラは家に帰る前に時間をつぶしていました。リラはパソコンを持っていたのです！パソコンでの課題はこれです。彼女はこの中に色と形を合わせて入れなければなりません。



手書きを見るとそんなに悪くは見えません。私は彼女のパソコンのスクリーン上で見える、きちんとしたグラフィックほど醜いものを見たことがありませんでした。「これってとっても退屈じゃない？誰だって青や赤、星や丸の違いが分かるじゃないない。これは2歳児向けのプログラムだと私は思うわ。」と私は言いました。(そうですとも！)

「これは私のお気に入りのプログラムなのよ。」と、彼女は殺したり、何か落ちてくるのを避けたりするようなヒーローゲームを起動させながらそう応えました。人間の経験のどん底、美しさも何の大望もない。

親は、かつてこれらのゲームを、反射神経に良いのだと言って擁護しましたが、子ども時代の私は、素晴らしく愉快的気分させてくれるゲームをしましたよ。スキップをしたり、ボール2、3個を壁やドアに当てながらジャグリングをしたり、ビー玉遊びや、卓球。卓球は反射神経を育てるのにとっても良いのですよ。もし私がリラだったら、私は読書かお絵描きをしたでしょうね。

考えることなくボタンを押す、止まることのない注意散漫、集中することもなく、現実から遠ざかっているのです。

他に私たちが話したことは、ソーシャルメディアでデモをすることができるということでした。これは良いことですし、私たちはこれを本当に構築する必要がありますでしょう。そしてオンラインでお願いができるなんてとても便利じゃないですか。ウィキリークスや、他の NGO は事実とプロパガンダの違いについて明らかにしました。人は政治的プロパガンダをもうそんなに簡単には鵜呑みにしません。そしてそれは、人が人種差別的な政党へと乗り変える理由です。（またはイスラム教）これについては後からもっと話しましょう。

ローレンスと話せてとても良かったです。彼は、私にいくつか質問をしてくれましたが、私たちが話した内容は、私にとってとても重要なことなのです。

4/12（土）：ヨガの後、正午にタクシーに乗って、弟のゴードンと、彼のパートナーのジョーディーンの家に行きました。私たちの生まれ故郷、ペイナンにあるグロソップまでドライブしました。車の中で、私はジョーディーンの本、ルドルフ・ヌレエフの伝記を読み始めました。私たちは従姉妹の結婚 50 周年記念のお祝いへと向かっていました。従姉妹のエディスにはもう何年も会っていませんでした。彼女が私を招待したいからと電話をくれた時に、何か以前も耳にしたことを教えてくれましたが、忘れてしまいました。彼女の夫のケンは、脳卒中にあい、体が麻痺していました。ここ 8 年間のエディスの生活は、週に 1 回ゴルフをする以外は、彼の面倒を見ることです。彼女はこの状況を、「私が彼を何となしなきゃ」と言います。ケンにとっては辛いことに違いありません。しかし人は困難にも関わらず人生を謳歌するものなのです。もちろん私もそうです。エディスは私（13 歳）と小さな男の子の二人がゲストとして参加した結婚式の写真がまだあると教えてくれました。

とても素敵な式でした。美味しい料理に、立派なスピーチ。私たちは従姉妹や友人達に再会しました。

二日間ホテルに滞在しました。従姉妹のヘイゼルと一家と、級友のマイクが私たちに会いに来てくれました。私はゴードンと過ごす時間を楽しみました。彼の頭の中は情報でいっぱいなのです。また、従姉妹の 10 代の孫たち、レイ、スカイ、スカイの彼のシーンとの会話も楽しみました。私は彼らに私の人生の哲学を教えました。人は自分が深く関心あることを追求していかなければなりません。私の学生時代の、魅力的な女子の仕事は、看護師や教師でした。そうでなければ秘書か会計士です。それは今もまだ同じですね。私はスカイにアートの歴史について勉強したらいいわよと示唆しました。

アンドレアスは、一度もこの地を訪れた事はありませんでした。彼は「イギリスがこんなに美しいだなんて知らなかったよ。」と言いました。とても美しいのです。そしてここは私の故郷です。人は誰でも自分が生まれた場所を一番に愛するものだと思います。ロンデンデール・ヴァリーが丘の間にあります。私たちの家からそこまでは 3 通りの行き方がありました。ダービシャー・ピーク・ディストリクトの緑の丘からと、チェシャー・ウッズから、そしてヨークシャー・ムアズからです。

アンドレアスがムアを越えてホルムファース（ラスト・オヴ・ザ・サマー・ワイン）まで運転しました。岩の上に立つとても目覚ましい建物、かつては羊毛の町で、丘の上に建てられた工場。そこには周りに何もなく、水力を手に入れる事もできませんでした。ムアを木靴工場の方に渡って2時間の場所にある、マイサムロイドに行きたかったのですが、時間がありませんでした。



月曜日に、ヘイゼルと彼女の娘、ポーラと一緒にかつて私たちがよくしたように、スワローズ・ウッドから、デヴィルズ・ブリッジの方へと歩きました。一家は、以前は川岸の方に住んでいて、子どもたちが川遊びをする中、ピクニックやおしゃべりをしていました。アンドレアスはこの場所が大好きになりました。丘の頂きを越えたところでお母さん羊を探していた子羊に後をつけられて、帰り着きました。オスの子羊でした。ということは、間もなく殺されてしまうのです。ポーラは、子羊が連れて行かれるのを見ると、とてもかわいそうになると言っていました。母親の羊が一晩中メーメー鳴くのが聞こえるそうです。それから、私たちは壮観な荒野を運転し、ロンドンへと帰りました。

4/18（金）スミススクエアにあるセント・ジョーンズにバッハのセント・ジョーンズ・パッションを聴きに。エイジ・オヴ・インライトウメント管弦楽団。覚えておいて下さいね。私は神様を信じません。しかし完全なるものの概念は信じています。これについてはいつか慎重に説明しますね。

私は英国国教会の元育てられました。私たちが子供の頃歌った賛美歌の中には、このパッションの一部である物もありますが、音楽がとてたくさんあり過ぎて、どの賛美歌がどのパッションなのかを正確に照らし合わせることはできません。聖歌隊に楽器、聖歌隊はデスカントを歌い、ベースは膨れ上がり、旋律が変化しながらいくつも重なり合って空高く舞い上がっていきます。その音楽が皆さんの心を満たしてくれます。その心を留めておくことなどできないし、そうしたくもない。皆さんは世界の一部であり、その世界が皆さんをさらってゆき、バロック音楽の催眠術のようなリズムに乗っているのです。これがプロテスタントの礼拝の違うところです。歌いたい時に一人、またみんなと歌って自分の心を満たします。一方カトリックの礼拝は、プロの聖歌隊からは完全に切り離されてしまいます。中間はアリアです。それぞれ異なる声は、異なる楽器によって組み合わせられます。そして物語が演者によって語られるのです。これに関しては、ジェレミー・オヴェンデンが最高でした。表現の透明さ、声、そして演出法！

全体が抑制の中で豊富に満ちています。皆さんはアンリ・ルソーの絵の中で、それと自然の表現を比べるかもしれませんね。

4/19（土）：マーク・スパイの誕生日です。マークは若い頃から、今ではメインのデザイナーとして、長い間私の元で働いています。初めはミシン工で、それからデイヴィス・ストリートのショップのマネージャーとなりました。マークがショップのマネージャーをしていた頃を覚えていて下さるお客様もまだいらっしゃいます。その方々はマークが組み合わせた美しい服をまだ着て下さっています。彼は素晴らしいスタイリストでもあるのです。彼の友人達がサプライズパーティーを計画し、私たちみんなが参加しました。彼は素敵な時間を過ごしたようです。

4/20（日）：コーンウォールへ。息子のジョーと過ごしに。家族全員がイースターになると、私の両親を思い出すために集まろうと努めます。私の母ドーラはこの時期に亡くなりました。



4/22 (火) : アンドレアスと私は今日ロンドンへ帰ります。ちょうど書き物を終えて、ヌレエフの伝記からの引用を選びます。この伝記は、**Climate revolution** のウェブサイトにも3部に分けて掲載するつもりです。この本はアンドレアスの車で、コーンウォールに来る道中もまだ読んでいました。アンドレアスはほとんど車を運転しないで、友達に貸してばかりです。

もう少し長くコーンウォールに滞在したいのですが、帰らなければなりません。ここはとても美しいところです。暖炉を囲んでおしゃべりをし、料理をして。ペンニン山脈よりも美しいのです。私が子供の頃住んでいたペンニン山脈では、プリムローズの花が咲いているのを見た事はありませんでした。風変わりなスマイレやたくさんのブルーベルがあるだけです。しかしここでは、生け垣の低木がまるで妖精のお庭のようなのです。

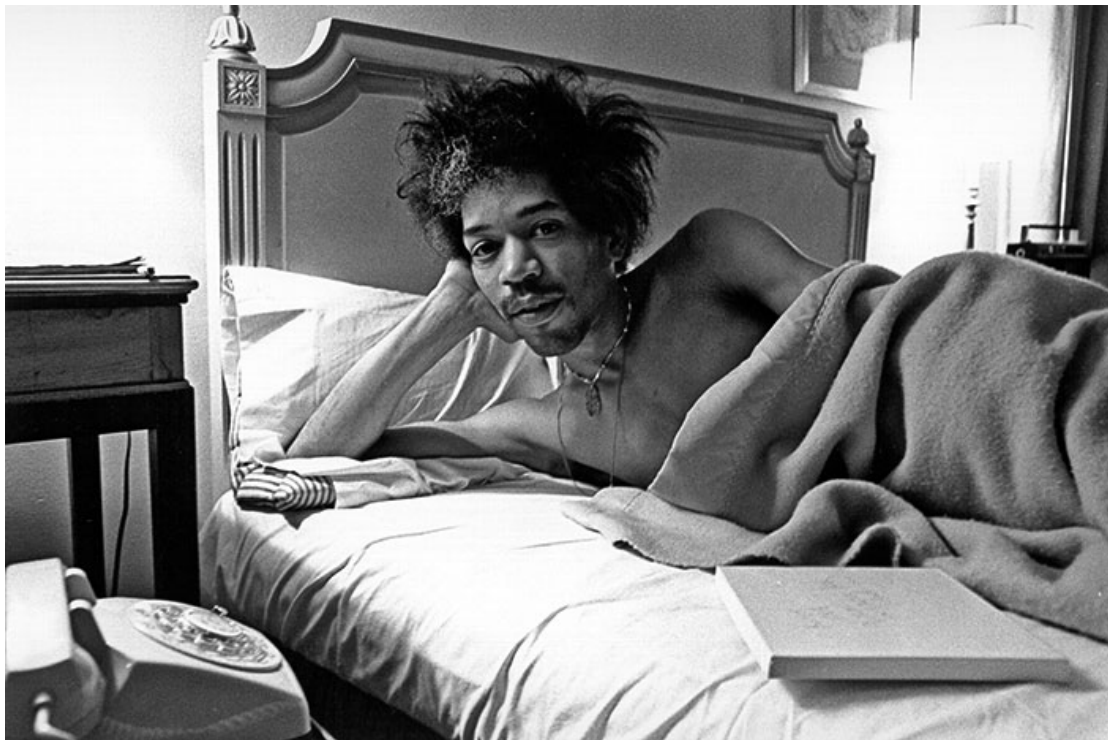
4/23 (水) : ユルゲンが私の伝記用の写真を撮りに家に来ました。彼は楽しそうでした。いい写真ができるでしょう。私たちは軽く食べ物をつまみながらおしゃべりをしました。彼は私たちの友達です。

4/26 (土) : サラが彼女の友人達を招いてハウスパーティーをしました。彼女の友人達とは、たまたま私たちの友人達でもありました。私たちはサラに小さなスカーフをあげました。他の人達はケーキやワインを持ってきていました。彼女が料理をしてくれたのですが、それがとっても美味しいカレーだったのです！私たちみんなはサラが上の階のリビングルームへ行くまで、台所で食べたり話したりしていました。リビングではコバルトがカクテルを作り、踊りたければ踊ることだってできました。コバルトはサラの旦那さんです。彼のバンド、ゾディアック・マインドワープとザ・ラブ・リアクションの活動をし、情報セキュリティの分野で働いています。

コバルトは、私に彼のお気に入りのギターを持たせてくれました。とても重くて、私は1分も持っている事ができませんでした。彼が他のギターを持たせてくれた時、ギターって全部重いのだなと初めて気付いたのでした。それを10分くらいは持つ事ができたでしょうに。私は「ヘンドリックスが今までで一番素晴らしいロックンロールスターだったわ。」と言いました。（エルヴィスも含みます。）コバルトは私に同意して、「一番だよ。」と言いました。

ジミー・ヘンドリックスがああギターを投げ散らかしたのも不思議ではありません。重みを落とすためにそれを振り飛ばし、その後はまるでダンスのパートナーのようにそれを引き寄せました。そしてまるで愛する人かのようにそのギターに火を点けたのも、何の不思議もありません。人は、ジミー・ヘンドリックスはいつもギターを纏っていたと言います。（ドキュメンタリーを見ました。アンドレアスがテレビを見るよう呼びに来てくれたのですが、彼が亡くなった時のことを聞きたくなかったので、全部は見ませんでした。）こういったスターたちは若くして亡くなってしまうのです。私は自分の人生を、あたかも私が若いままであるかのように生きてきましたが、今、歳を重ねて、若さは特別なだけでなく、実際には他の特別な何かだと悟りました。

ジミーはきれいでした。そして彼の着こなし方！あの当時に彼のように着こなし、ギターを弾き、踊って歌った人は他にはいませんでした。彼には独特な歌い方があり、そして呼吸をするかのような話し方をしました。彼は風のように歌いました。ジミー・ヘンドリックス。



予期せぬ事が起きました。友人のロバートが酔っぱらったのです。何が予測外だったかと言いますと、彼が、「ヴィヴィアン、俺たちみんな UKIP に投票しなきゃならないよ。もしそうしなかったら、この国でもモハメッドの教えのシャリア法を取り入れることになってしまう。」と言ったのです。これら二つには、何の繋がりもない事を彼に伝えることはできませんでした。それで一人ずつ一人ずつと、彼を無視していきました。彼はそこで一晩過ごし、翌朝サラに、自分は UKIP には投票しないよと言ったそうです。酔っぱらった時にどうやったらそんな事思いつくの？「お酒を飲んだら本性が現れる」ってこと？

政治的なスペクトルでは、UKIP のまさにその存在こそが、無価値なキャメロンとミリバンドが党首である二大政党の過ちだと言われています。もちろんその通りです。彼らが、物事はうまくいくようになるだろうと言っても、誰もそれを信じはしません。彼らは経済の成長と回復についてよく話をしますが、国民はどんどん貧しくなっているではありませんか。例外があります。住宅市場の増大によって、一部の人たちは利益を得ました。しかしこれは貧しい人々をさらにひどい状況へと追い込みました。ここ 2、3 十年の間に、そしてこの世界が資本主義の仕組みになって以来、統計によると、貧困者はさらに貧しくなっていると言います。資本主義は強者が弱者を食い物にする時だけ繁盛するものです。このシステムが、絶えず貧困を上昇させています。今では貧困者はどんどん貧しくなり、物事はとてもひどくなったということです。

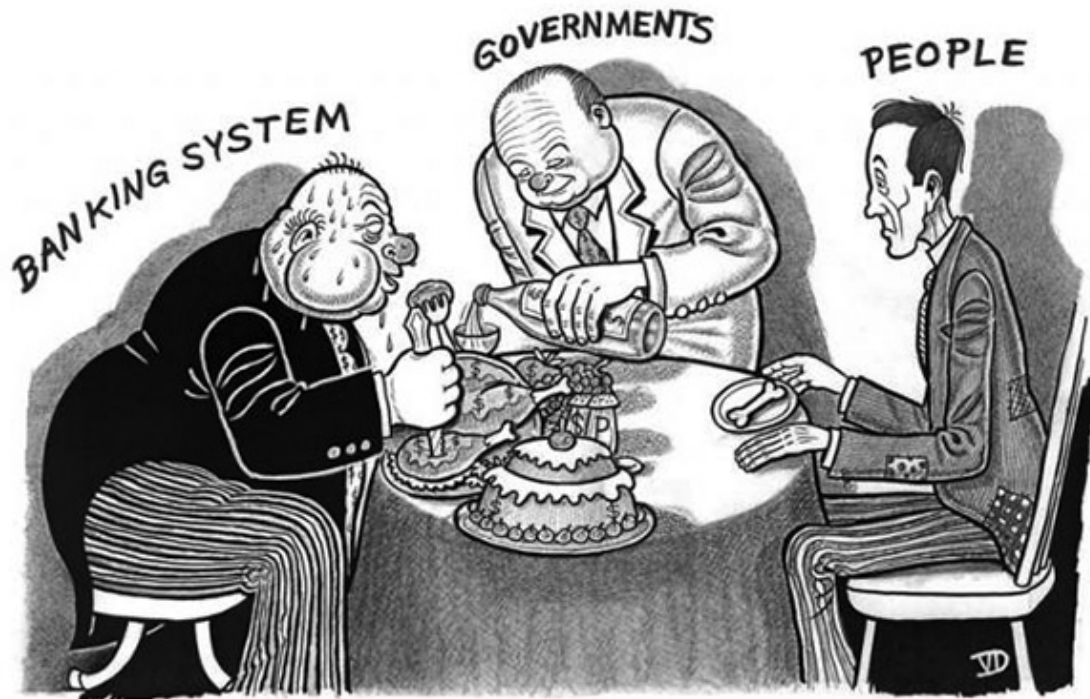
UKIP は、これら二大政党と同じです。私たちに敵を送り込みはしませんが、同じような古いお決まりのやり方で、大惨事へと向かっています。資本主義は戦争心理の元に機能しています。真の敵、または作られた敵が必要なのです。（「1984」を読んで下さい。）敵意と国粹主義は、自分たちを守りたい時に、最後に必要とされるものです。競争ではなく協力をして、世界規模での解決がいるのです。

私たちには新しい政治が必要です。もし望むなら、手に入れる事ができるでしょう。



"WHAT'S GOOD FOR THE PLANET IS GOOD FOR THE ECONOMY"
"WHAT'S BAD FOR THE PLANET IS BAD FOR THE ECONOMY"

これはもちろん Climate Revolution です。そして緑の党の指針でもあります。



政治家たちは、怯え過ぎて彼らの政治を変える事ができません。政治家たちは私たちに敵対しているのです。彼らは怯え過ぎて、大企業だけを支える私たちの政治を変える事もできません。問題は一般の人々も同様に怯えているということです。私たちは 200 年もの間消費者として鍛えられてきました。自由市場の資本主義は消費に依存しています。ビジネスが不当な利益を産めば、それが「成長」を促すので、例え末端にいる人々にまで利益を与えないとしても、利益は産むべきだということは認めます。私たちは、私たちが今持つ価値基準を変えなければなりません。それから新しく、お金の真価値を取り入れるのです。

4/27 (日) : バービカンに。マーラーの交響曲第7番。アンドレアスに何について書いたらいいかしらと尋ねました。彼は、「マーラーを知らない人が、彼について知ろうとするようなこと。彼の音楽を聴く時は、僕にとってはいつも驚くほど素晴らしい経験となるよ。彼の音楽は、本当に人生に何かを付加してくれると思うんだ。」と言いました。

初めて私 (アンドレアス) がマーラーを聴いたのは、もちろん、トマス・マンの小説をヴィスコンティが映画化した「ベニスに死す」でした。あの頃私はとても若かったのですが、どなたかあれよりも良い映画を観た事がありますか？ビーチで話しているのが聞こえて、子供たちは遊び、そしてその後を音楽が続き。それがヴィスコンティでした。



4/28（月）：マルハナバチを守るための運動をしている、[ザ・プライト・オヴ・ザ・バンプルビー](#)のメンバー達が私に会いに来ました。カメラに向かって何かを言う機会をもらえて嬉しかったです。私は、いかに全ての事が繋がっているかについて話しました。人々がそれぞれの視点で物事を見る事が問題なのです。これをして！あれをして！何故？だってあなた方はできるでしょう。もし人が地球を汚染して、現状ある環境や天候を変えてしまうならば。

それゆえにハチの数は減り、人はまた別の解決策を探さなければなりません。
それは、安価な労働者をただ雇い、植物に受粉させるということでしょう。